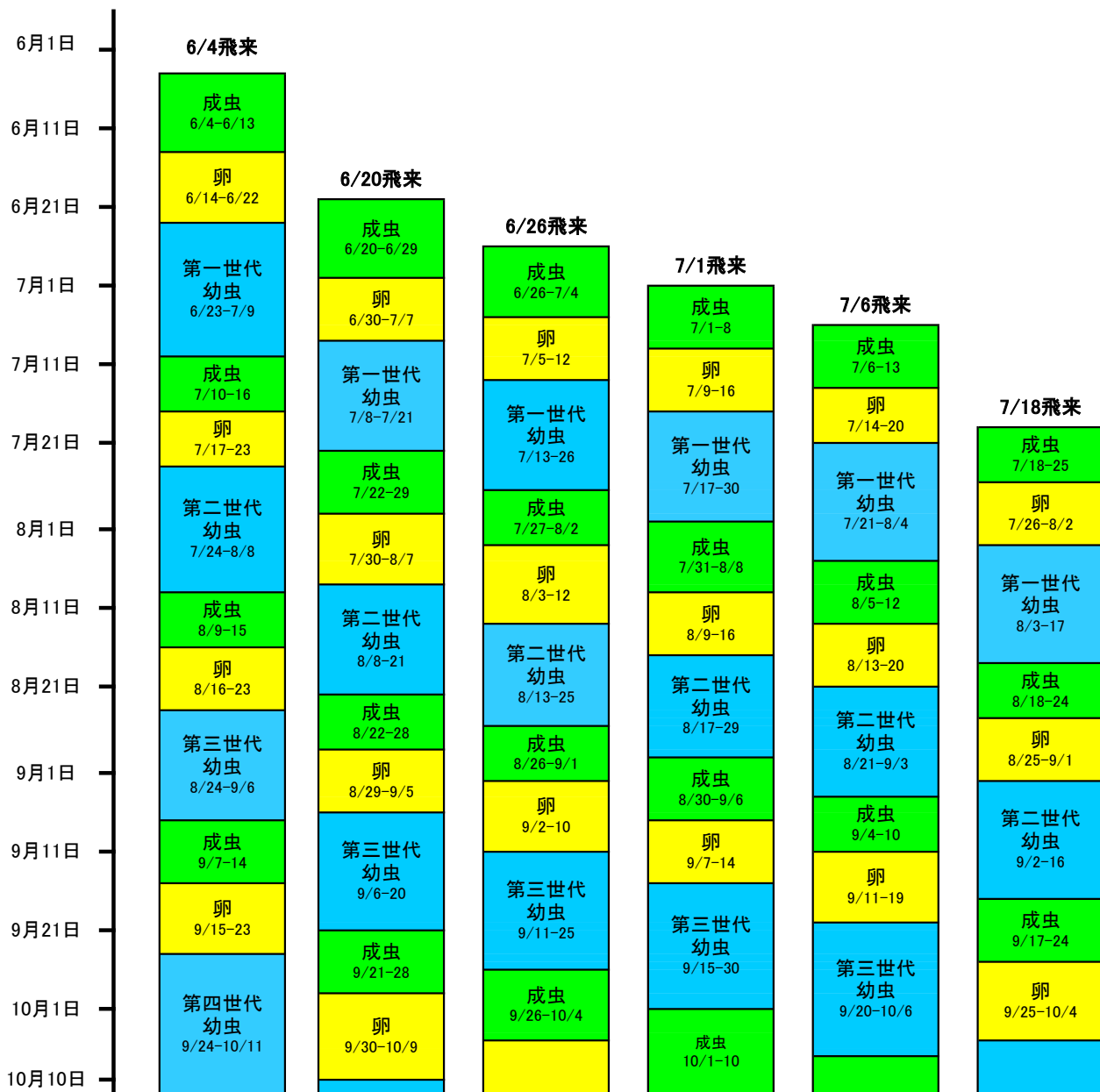


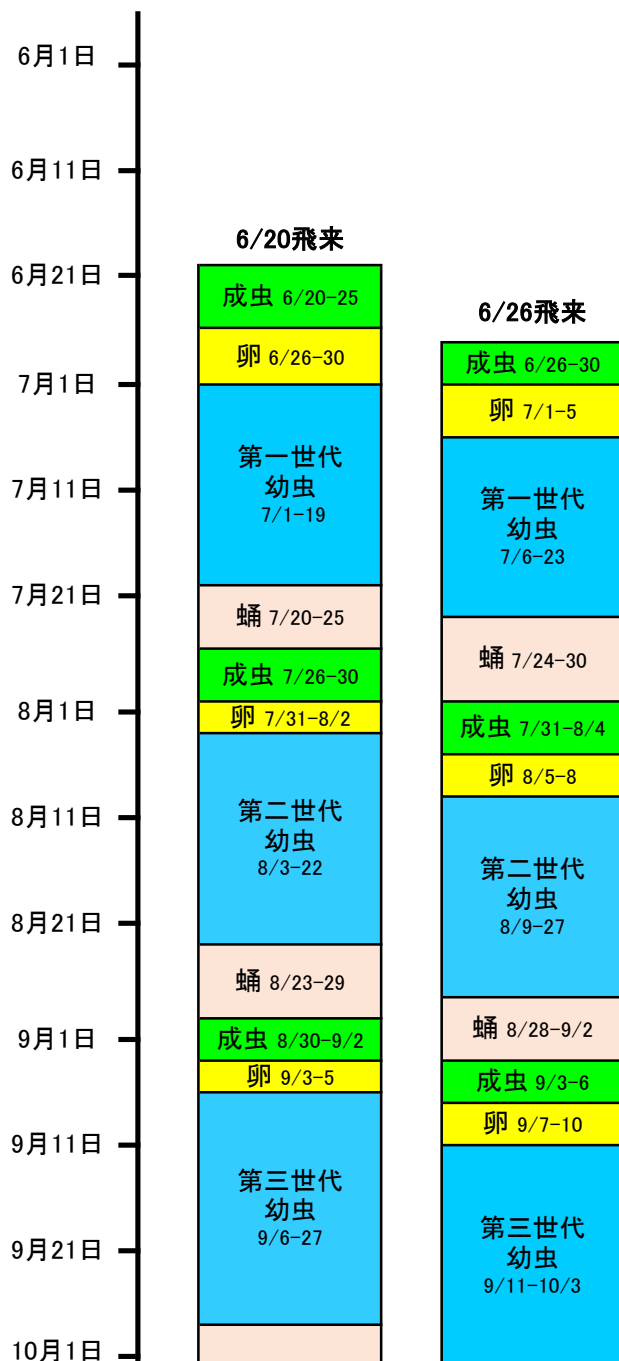


共通一図1 トビイロウンカ各世代の発生予測（第3版、2026年8月20日作成）

1. 6月3～6日頃（図では6月4日）、6月17～20日頃（図では6月20日）、6月26～27日頃（図では6月26日）、7月1～2日頃（図では7月1日）、7月4～6日頃（図では7月6日）、及び7月16～20日頃（図では7月18日）の飛来虫を起点とし、トビイロウンカの有効積算温度及び佐賀市川副町のアメダスデータ（8月20日以降は平年値）に基づき作成した。三角法を用い、発育零点 12℃、発育上限温度 28℃、発育停止温度 33℃とした。

2. 田植え時期、品種等の違いによって、本虫の発生量は異なるので、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、防除対策を講じる。

3. 今後の気象経過等に応じて、本図は随時、更新するので、最新情報は、農業技術防除センターのホームページで確認する。



共通一図2 コブノメイガ各世代の発生予測（第3版、2026年8月20日作成）

1. 6月20日頃、6月26日頃の飛来虫を起点とし、コブノメイガの有効積算温度及び佐賀市川副町のアメダスデータ（8月10日以降は平年値）に基づき作成した。三角法を用い、発育零点 13℃、発育上限温度 28.5℃、発育停止温度 33℃とした。

2. 田植え時期、品種等の違いによって、本虫の発生量は異なるので、**必ず圃場ごとの発生状況を確認**したうえで、防除対策を講じる。

3. 今後の気象経過等に応じて、**本図は随時、更新するので、最新情報**は、農業技術防除センターのホームページで確認する。